

ひきこもり**当事者**から見た ひきこもり**支援**の在り方



生活困窮者自立支援制度人材養成研修
ぼそっと池井多

なぜ**就労支援**ではダメなのか

社会に適用する
スキルを教える

そんなものは
その気になればいつでも**学習できる**
多くの当事者は潜在的な**能力**を持っている

問題は ……

問題は その気にならないこと

「自分は何者か」

「何のために働くか」

哲学的な問い

当事者自身でたどりつく答えであり
支援者が与えられるものではない



親

支援者

代弁

子(当事者)



親

翻訳

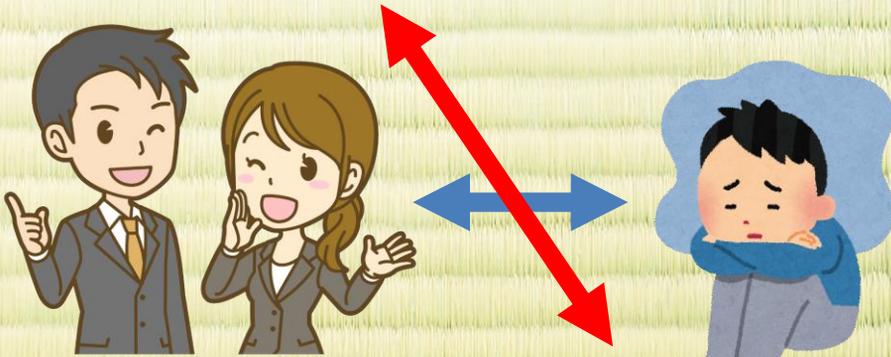
支援者

子(当事者)

社会の
ことば

当事者
のことば

「支援される」
という状態に潜む優劣感覚



支援する側は対等のつもりでも.....

ひきこもり支援で行政が
直接できることは **あまりない**

限りある予算とマンパワー

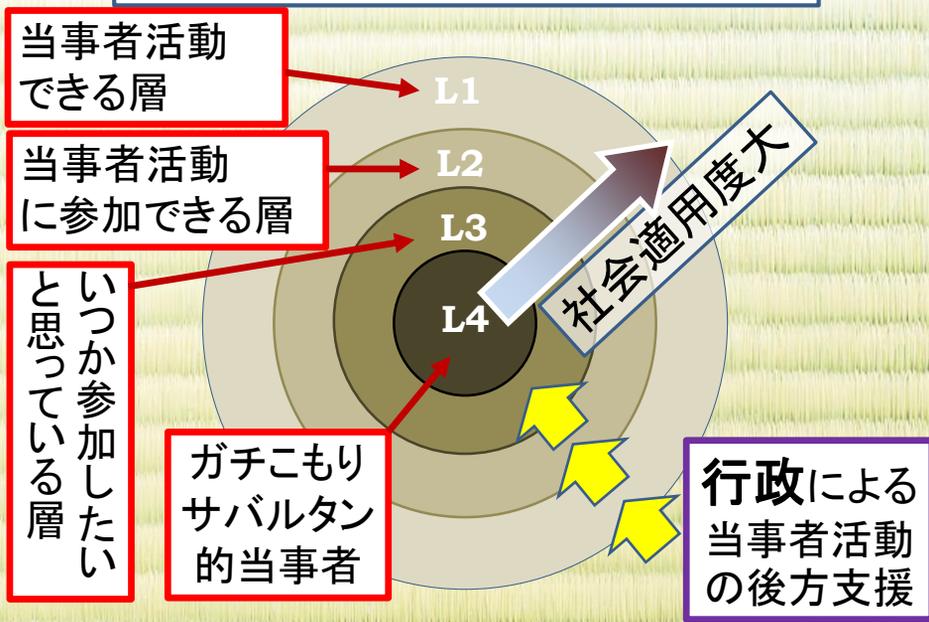
コストパフォーマンスの問題

行政による
ひきこもり当事者への個別訪問
は、はたして効果的なのか？



当事者活動の後方支援
の方が効果的

ひきこもり当事者の諸層

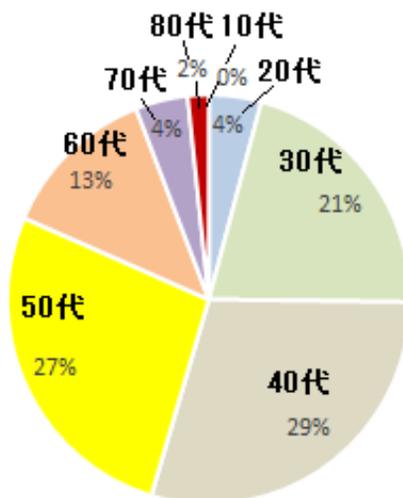


当事者活動の例(1)

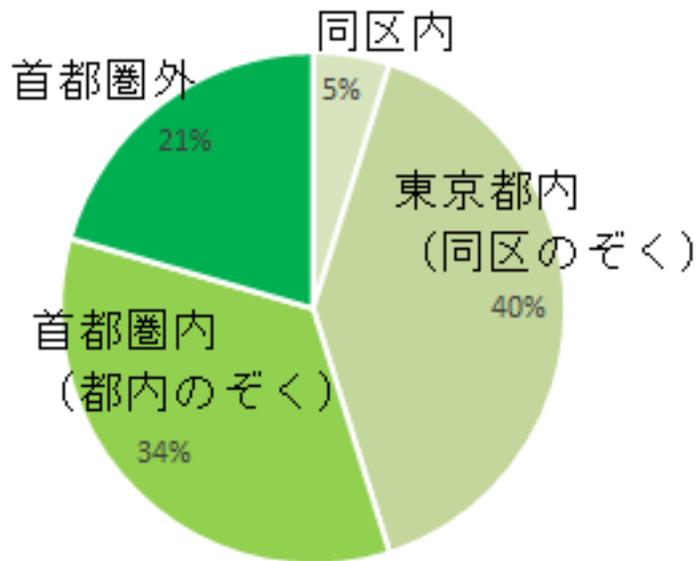
ひ老会 (ひきこもりと老いを考える会)



ひ老会参加者の年齢層分布



ひ老会参加者の地理的距離



ひ老会参加者の地理的距離

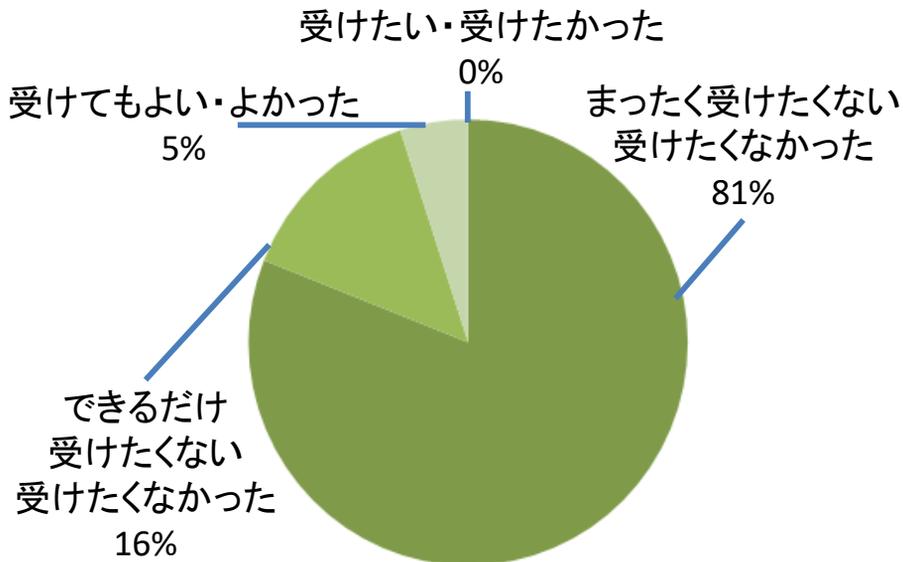
近所の居場所には行かない

自分に合った居場所は
高速バスに乗ってでも行く

参加者は場所の利便性よりも
「人」を求めて集まってくる

同じ問題の当事者

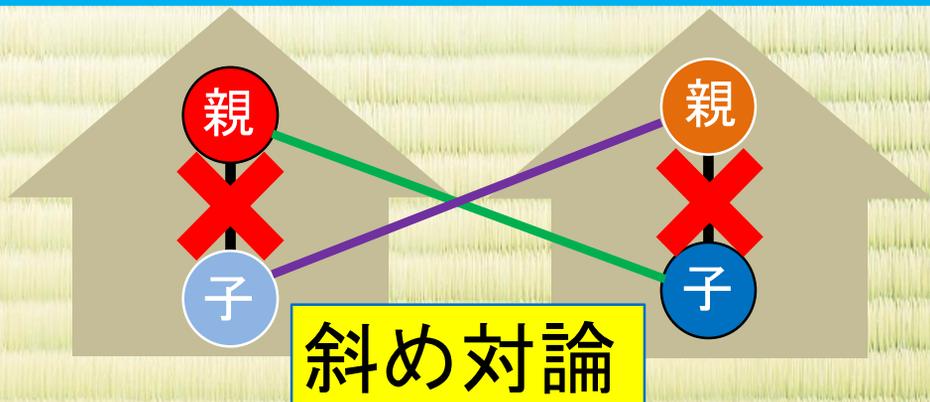
行政によるひきこもり支援の訪問を



当事者活動の例(2)

ひきこもり親子 公開対論

自分の親 / 子とは対話できない



これら**当事者活動**も
行政の後押しがあれば、
もっと多くの当事者に
アプローチできる。

